

氏名	小 倉 英 郎		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1870 号		
学位授与の日付	昭和62年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	Serum Antibodies to Escherichia Coli in Breast-fed and Bottle-fed Infants (母乳栄養児と人工栄養児における血清大腸菌抗体)		
論文審査委員	教授 金政泰弘	教授 新居志郎	教授 関場 香

学位論文内容の要旨

母乳の大腸菌感染に対する防禦機序を明らかにする目的で、母乳および乳児血清中の抗大腸菌抗体価を測定し、栄養法別に検討した。

抗大腸菌抗体価の測定には大腸菌026 : B 6 の Lipopoly Saccharide を用いた間接血球凝集反応を応用した。

母乳の大腸菌抗体価は分娩後 2 ~ 5 日では極めて高値であったが、その後、急速に低下した。血清大腸菌抗体価は人工あるいは混合栄養児の 6 例中 4 例および生後 7 カ月以後の乳児 9 例全例で陽性であり、その抗体価は幼児および成人と殆んど同じレベルであった。一方、生後 6 カ月以前の母乳栄養児では、大腸菌性肛門周囲膿瘍の 1 例を除き、10 例全例で抗大腸菌抗体は検出されなかった。以上の結果より、母乳栄養児の大多数では大腸菌の感染が阻止されるが、人工あるいは混合栄養児の過半数では乳児期早期から大腸菌の感染を受けるのではないかと推察された。母乳中の大腸菌抗体価が分娩後数日で低下するにもかかわらず、母乳栄養児において生後 7 カ月の長期間、大腸菌感染が阻止される理由に関しては、母乳中の抗体価は低下するが哺乳量の増加により、乳児が摂取する抗体量の減少は軽度であることおよび乳児の腸管での抗体産生能の発達によるのではないかと推測した。

論文審査の結果の要旨

本研究は、母乳の大腸菌感染に対する防禦機序を明らかにする目的で、母乳および乳児血清中の抗大腸菌抗体価を測定し、栄養法別に検討したものである。母乳栄養児は、母乳中の抗体価のために大腸菌感染が阻止されるが、人工栄養児・混合栄養児では感染されやすいことを血清学的に明らかにした。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。